

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 2 月 27 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/27 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	17.3	107.1 kPa abs	A系： 0.20 vol %
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.12 ² vol %
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.4 m ³ /h	31.0	6.57 kPa g	A系： 0.04 vol %
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.04 vol %
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.5 m ³ /h	30.1	0.25 kPa g	A系： 0.14 vol %
		給水系：約 0.0 m ³ /h			B系： 0.15 ² vol %

*1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

*2: 計器点検作業に伴うデータ欠測のため、直近で計測できている 2/27 5時現在の数値を記載。

[2号機]・H25/2/20～2/22 [3号機]・H25/2/25～2/27

原子炉注水設備において、3月に給水系の信頼性向上工事を予定しており、工事時に給水系からの注水を停止する予定。工事を行う前に給水系からの注水を上記の期間一時停止し、炉心スプレイ系(CS)のみの注水を実施し、原子炉の冷却状態に有意な影響がないことを確認する。

H25/2/20 13:16 給水系の信頼性向上工事に伴い、2号機原子炉注水について、給水系からの注水量を約 1.9m³/h から 0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.4m³/h から約 5.5m³/h に変更。

H25/2/22 19:30 原子炉等の冷却状態に有意な変動の無いことを確認できたことから、2号機原子炉注水について、給水系からの注水量を 0 m³/h から約 2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 5.5 m³/h から約 3.5 m³/h に変更。

H25/2/25 14:22 給水系の信頼性向上工事に伴い、3号機原子炉注水について、給水系からの注水量を約 2.0m³/h から 0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.5m³/h から約 5.5m³/h に変更。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/27 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	9.0
2号機	循環冷却システム	運転中	11.0
3号機	循環冷却システム	運転中	8.1
4号機	循環冷却システム	運転中	19

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドランジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	2/24 14:29 ~ 2/27 9:25 移送実施

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。なお、当該作業については、2月中旬まで、適宜、実施する予定。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (2/27 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

< 5 . その他 >

・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8 ~ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/2/23 12:12 頃 協力企業作業員が2号機タービン建屋1階ヒータールーム中央付近で水溜まりを発見。水溜まりの範囲は約5m×約1m×約1mm。当該箇所の天井部分の数箇所から、5秒に1滴程度の水の滴下があること、および水溜まり周辺にある配管や仮設ホースからの漏えいはないことを確認。当該水溜まりから採取した水を分析した結果、セシウム134が $1.3 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム137が $2.5 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$ 、床面の汚染状況を確認した結果、セシウム134が $1.2 \times 10^2 \text{Bq/cm}^2$ 、セシウム137が $2.1 \times 10^2 \text{Bq/cm}^2$ 、当該箇所の雰囲気線量率を測定した結果、ガンマ・ベータ線が0.7mSv/h、ガンマ線が0.7mSv/h。また、当該箇所の天井部分の上部に該当する2号機タービン建屋2階にあるタービン排気フィルタ室に水溜まり(約15m×約11m×約10mm)があることを確認。

H25/2/25 2階タービン排気フィルタ室の水溜まりは、天井から滴下した水によるものであることを確認。

H25/2/26 2階タービン排気フィルタ室に天井から滴下している水を分析したところ、セシウム134が $1.1 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム137が $1.9 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$ であったことから、滴下した水は雨水と推定。現場を確認したところ、1階ヒータールーム床面への滴下(5秒に1滴)と2階タービン排気フィルタ室床面への滴下(2~3秒に1滴)が継続していることを確認。なお、詳細状況については現在調査中。

< 参考: 2号機タービン建屋地下溜まり水の核種分析結果(H25/1/11 採取) >

セシウム134が $1.8 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム137が $3.4 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$

・H25/2/25 ~ 2号機TIP(移動式炉内計装系)案内管の健全性確認を実施中。

以上